市内各地でイベント復活

越後よしかわ酒まつりは５年ぶり開催

新型コロナウイルス感染症が５類に移行して2年目の秋、昨年は開催のふんぎりがつかなかったところも次々とイベントを復活させました。

私の地元では6日、越後よしかわ酒祭りが５年ぶりに開催され、大勢のお客さんで賑わいました。

午前10時からのオープニングセレモニーでは、小田副市長、近藤市議会副議長などが挨拶に立ち、杜氏の郷として全国に名をはせた吉川区の頑張りを称え、地域の発展を訴えました。

そのなかで、東京都荒川区議会の北城議長が20数年前、矢沢町長時代に尾神岳に行き、ハングライダーを見たなどといった懐かしい話を披露され、注目されました。都市間交流は今後も大事にしてほしいものです。

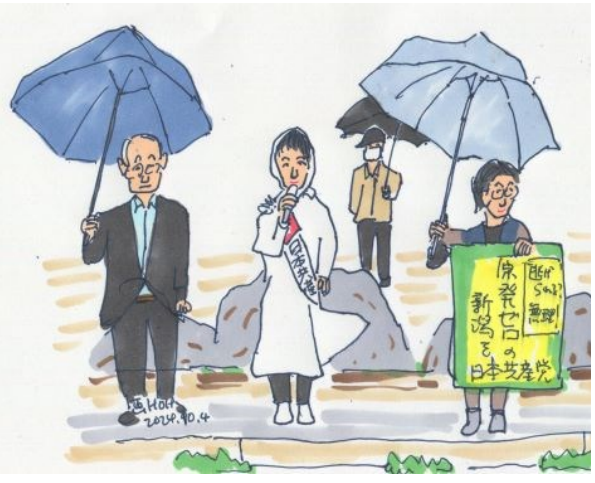
セレモニー終了後は吉川中学校吹奏楽部の演奏、頸城酒造り唄の披露、コミュニティバンド・ピアスや頸北太鼓グループ瑞芭による演奏などが行われました。

会場では、あちこちでコウノトリのことが話題となっていました。ピアスの皆さんも「コウノトリさん、ありがとね」を歌って盛り上げてくださいました。イラストは酒づくり唄の披露、ピアスの皆さんの演奏風景です。

青空市、1000回到達

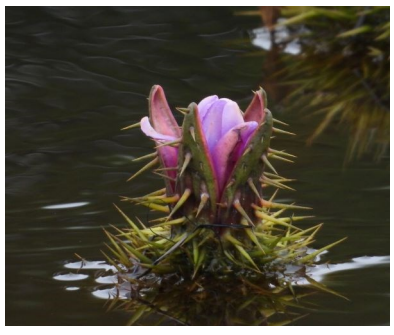
上越市青野において、2013年から冬期間をのぞく偶数日に開催されてきた青空市が８日で1000回目に到達しました。この記念すべき日に、私はキュウリなどを買い、女性２人とおしゃべりしました。

ここは農産物の販売の場であるだけでなく、地区を越えた交流の場ともなっています。2000回開催を目指してさらに頑張ってほしいものです。



平あや子さんと街宣

日本共産党の平あや子元新潟市議と共に４日、市内で街頭宣伝をしました。横殴りの強い雨でしたが、自民党の腐敗した政治を大本から変えるため、日本共産党を伸ばしてくださいと訴えました



吉川区小苗代池で咲いたオニバス。今年は形もよく、きれいです。６日、撮影しました。

【シラネセンキュウ】
セリ科の多年草。漢字で「白根川芎」と書きます。山地の日陰、渓流沿いなど湿気の多いところに生育しています。今年は高温が続き、生育地は普段よりも少なかったですね。花期は9月～11月。白い小さな花がたくさん咲き、その美しさは群を抜いています。花言葉は「永遠にあなたのもの」。10月５日、柿崎区東横山にて撮影。

はしづめ法一の活動レポート

No.2175 2024.10.13
発行･編集 日本共産党上越市議　橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL https://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見てある記」は←こちら

橋爪法一　検索

春よ来い　第八二三回　納骨

母の三回忌法要の後に納骨をすることにしたのは、母の命日である一〇月八日からひと月ほど前でした。正直言って、それまでは早期に納骨をする気持ちになっていませんでした。

じつは一年ほど前、吉川区内のあるお寺にお邪魔した際、たまたま納骨の話になりました。そのとき、N子さんから意外な言葉を聞いたのです。

「うちのお父さんは、自分の母親の遺骨は七年も家に置いていたんですよ」

その言葉を聞いて、とてもうれしくなりました。そうですよね。大切な人の遺骨はできるだけそばにおいてあげたい。その気持ちはお寺さんも同じなんですね。

以来、母の納骨はしばらく先にしようと決め、骨箱は座敷に置いたままにしていました。

ところがひと月ほど前、長女が「ばあちゃんの骨箱のとこ、カビが生えている」と言ってきたのです。そばに行ってみると、骨箱の下敷きにカビが生えていました。となると、骨にも生えるのは時間の問題だ、と思いました。長女は骨箱に防湿剤を入れて対応してくれました。でも、「このままじゃ、かわいそうだよ。お墓に入れてあげようよ」とも言ってきたのです。いつかは墓に入れなければならないし、やむを得ないと判断しました。それで三回忌法要でお世話になる専徳寺さんにお願いして法要後、納骨することにしました。

法要の前日、わが家の墓掃除に行きました。お盆以降、墓参りに行っていませんでしたので、周辺には落ち葉があり、木の枝なども落ちていました。それらは一〇分ほどで片づけることができました。

掃除が終わってから、墓の右側にある遺骨を入れる場所の石が動くかどうかを確認することにしました。わが家の墓は地震やそばの木の根の影響で少し斜めになっていたので心配していたのですが、やはり、簡単には動きませんでした。それで、墓の一番上の石を何とか動かし、その下の遺骨を入れる場所の石をやっと引き出しました。

さて、納骨の本番です。この日は午後から雲が広がり、夕方五時には薄暗くなっていました。愛知県からやって来た弟と一緒に母の骨を墓の中にすべて入れた後、私から「かあちゃん、これからイサムの手紙、読むよ。聴いてくんないや」と呼びかけ、手紙を読み始めました。

じつは数日前にも家の座敷でこの手紙を読んだのですが、最初の「〝おかあさん、ありがとう〟と一五行程連記して青い郵便入れを貰ったのは小学二年の頃」と読んだところで胸から熱いものがグッとこみあげてきて涙が止まりませんでした。墓の前で読んだ時も、イサムの母へのあふれる思いが思い出されて、まともに読めません。ただ、涙は流れても薄暗いなかでしたので、助かりました。なんとか終わりまで読み終わることができました。手紙には父のことも書いてありましたので、母だけでなく、亡き父も喜んでくれたはずです。

納骨、そしてその後のお斎が終わって自宅に戻ったのは午後八時頃でした。お酒は飲んでいませんでしたので、居間で長座布団の上で横になりました。そして何とはなしに座敷の床の間を見たら、白い布をかぶせた骨箱の台はそのままになっていました。でも、その上にあった母の骨箱はありません。そのさみしさは言葉に表せないものがありました。

翌朝、八時頃に愛知の弟がわが家の立ち寄り、挨拶した後、帰路に着きました。車に乗り込む際、弟が言いました。「ここで車に乗って帰ろうとすると、かちゃ、いつも泣いちゃってさ……」。母の姿はもう見られませんが、その時、弟の車のそばでまた、母が泣いているような気がしました。

『コウノトリさん、ありがとね』が好評

吉川区敬老会が3日にゆったりの郷ゲートボール場で行われました。

式典では中川市長が式辞をのべ、渡邉市議会議長が来賓として挨拶しました。万歳三唱の音頭は私の役目でした。コウノトリのことが大きな話題となっている中でしたので、万歳三唱の前に『コウノトリさん、ありがとね』の歌を一番だけ歌い、「コウノトリとともに幸せになりましょう。幸せな地域づくりをしていきましょう」と訴えさせてもらいました。

第2部では舞踊グループ曙会の皆さんによる日本舞踊、コミュニティバンド・ピアスによる演奏などを楽しみました。曙会の皆さんが着替えをしている時間帯に抽選会があり、渡邉議長とともにくじを引く役目もしました。ピアスの皆さんは歌謡曲、民謡、なんでもこいの演奏で、『コウノトリさん、ありがとね』もカいっぱい、愛情込めて歌ってくださいました。ピアスの皆さん、ものすごい人気でしたね。

上のイラストは愛の家グループホームから参加され、くじ引きで当たった人の所に私が景品を持って行った時の様子を描きました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。１時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は１時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だとのことです。

	10月2日（水）	10月9日（水）
上越消防署	０．０５３	０．０５０
上越南消防署	０．０４７	０．０４０
新井消防署	０．０５０	０．０４７
頸北消防署	０．０４７	０．０５０
頸南消防署	０．０６７	０．０６３
東頸消防署	０．０４３	０．０４７
名立分遣所	０．０６０	０．０５７
高士分遣所	０．０４７	０．０５７